

八月三十一日

昨日朝十時過から夜十一時まで講評会。終らず、ワークショップ最終日の今日、午前中九時半から講評会続行。不思議なことに、学生の作品の質は毎年毎回上っている。

今年の収穫はオレゴン大学三才の学生エレン・レスター君。彼の提案は社会化できる。すぐに実現に向けて動こう。マイノリティとミニマムデザインそして建築の再生と都市との関係がバランス良く提案されていた。

佐賀が駄目なら北海道でやってみるか。レスターのプランをプロジェクト化するプログラムを組んでみる。

今朝、学生に提案してみるのが第一歩。折角、日本中から一〇〇人も集まっているのだから、この機会を逃すことはない。

W・Bプロジェクトの二号としよう。一号は有明クリーク・計画だった。学生は皆、忘れてしまっているだろうが、アレもいつか現実化してやる。

レスター案を第一STEPとして私のホームページに掲載。学生に参加を求め、日本中にネットワークを張る。IT連絡網を使用する。松崎町のERTOフト計画に、この案を組み込む。北海道字図書館を北の拠点。唐桑町を東北の拠点。松崎町を中部の拠点。難波さんを大阪の拠点。藤野さんを宮崎の拠点とする。勿論、ホームページ責任編集は丹羽太一。早稲田・バウハウスの卒業生がすでに六百人いるから、それを核にすれば良い。

八月三十一日 つづき

午前中 講評会のつづき。

午後一時 井本勇佐賀県知事来校。

修了書授与式。

スクールは全日程を終了した。

今夏も事故が無かったのが一番。病人も出なかったのを感謝する。